

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立草加小学校

(令和6年2月5日作成)

1 学校教育目標	
(1) 考える子 (しっかり聞く、はっきり話す、自ら考え解決する) (2) 思いやりのある子 (明るいあいさつ・返事、ていねいな言葉づかい、人に優しいあたたかな心) (3) たくましい子 (楽しく運動ができる、健康と安全に関心をもつ、進んで集団行動ができる)	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
(1) 教科指導 <ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態に即した教育を推進する。(学力調査の活用等) ・学びの価値を実感できる授業を推進する。 ・コミュニケーション能力の育成を推進する。 ・0歳～15歳を見通した教育を推進する。 ・ICT機器を活用する能力を育成する。 (2) 生徒指導・教育相談について <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつは一生の宝物」を合言葉にする。 ・いじめ・不登校対策に全力で取り組む。(予防、発見、対応、解決、見届け) ・学校生活アンケートの適切な実施。 (3) 学校行事・教育活動全般において <ul style="list-style-type: none"> ・困難を乗り越えられる知恵、しなやかでたくましい心と体を育む教育課程の実施。 ・一人ひとりのよさを見つけ、褒め、伸ばす。 ・夢を実現するために必要な資質・能力を意図的、組織的に育成する。 	成果 ○保護者向け学校評価において、学校に対しての評価項目については、いずれも90%以上の保護者から肯定的評価を得た。 ○アンケート項目「学校は、教育活動の内容を適切に公開しているか」という設問については、95%の保護者が概ねそう思うと回答した。 ○各種学力・学習状況調査の活用や校内課題研修の取組により、児童の学力向上を推進した。草加市学力・学習状況調査では、平均正答率が全学年の全教科で市内の平均を上回るなど成果が見られた。
	課題 ●登下校時のあいさつ ●ICT機器の活用。 ●不登校児童の増加。 ●幼保小中を一貫した教育の推進。 ●教職員の働き方改革推進。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]			
領域	評価項目	評価の観点	評価 成果と課題 ○成果 ●課題
I	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A ○学校教育目標に掲げる知徳体の調和のとれた児童育成を意識した教育活動ができています。 ○教職員一人一人が使命と誇りをもって勤務している。尊敬し信頼し合える人間関係が構築されつつある。 ○予算は本年度も99%以上執行率となる見込である。決算監査も適切に行っている。

学校運営に関するもの	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<p>○研究授業を年3回実施し、自己肯定感・自己有用感を高める手立ての検討、実践、振り返りをとおして質の向上などを図ることができた。</p> <p>○年6回のICT研修を計画的に行い、職員のスキルアップが見られた。</p> <p>●学校行事等との業務のバランスを考え、年度当初の計画をより具体的に示す必要がある。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○年度当初、時期を捉え危機管理マニュアルを確認し、共通理解ができています。</p> <p>○日々の安全点検等で明らかになった危険箇所は、即対応をできた。</p> <p>○学校保健委員会を実施した。</p> <p>●転落防止策に対する危機意識が低い。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○校支援の活用により、個人情報を持ち出す必要がなくなった。</p> <p>○個人情報持ち出し簿の活用が図られた。</p> <p>○個人情報管理、施設管理の瑕疵による事故等は無かった。</p> <p>●施設の老朽化に伴い、計画的な環境整備が必要である。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○HP、すぐる、各種たよりを通じて、保護者地域への情報提供、発信を心がけた。保護者アンケートでも肯定的評価をいただいている。</p> <p>○毎週末メールマガジンで、学校の様子を伝えることができ、保護者・地域、そして児童の関心が高かった。</p> <p>○学校運営協議会は、当初の計画通り、4回実施し、学校経営にご意見を頂くことができた。</p> <p>○4年ぶりに、地域・保護者有志によるふれあいまつりを実施できた。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○次年度に向けて全体計画や年間計画等を年度内に検討した。</p> <p>○4年ぶりに幼保との交流給食を実施し、入学に向けて園児の関心・意欲を高めることができた。</p> <p>●中学校からの乗り入れ授業教員の活用を充実させる。</p> <p>●連携交流行事、幼保小中一貫教育の研究について、各校・園との連絡調整を行い、具体化していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	○学校や児童の実態に合った、授業で活用できる学力向上プランの作成を、年間2サイクルで行った。そして、プランに基づき授業実践ができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	○校内課題研修を通して、教職員の指導力向上と児童の学力向上を図った。 ○南部事務所指導主事を招聘しての県学力・学習状況調査活用研修を行った。活用方法が分かり分析結果を各自指導法に生かすことができた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	○道徳教育の抜本的改善に係る校内授業研究会などにより、理論理解とともに実践的な指導法について教職員全体で共通理解を深められた。 ○「こころのおと」など学校独自の取組により、家庭と連携しながら道徳教育の推進を図ることができた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	A	○外国語専科とALTが指導内容について綿密に打合せを行い、充実した学習活動を展開することができた。 ○市内小中学校の外国語専科やALTを対象にした研究授業を行い、指導法工夫による児童の着実な技能の伸びを公開できた。 ○小中連携教員が週2回授業に入り、個に応じた指導等を充実させることができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	B	○異学年集団でのけやきっこ遊びを計画的に実施し、豊かな心を育むことができた。 ○朝の集会内容も工夫され、今年度より公開も行い保護者の関心が高かった。 ●自己肯定感・自己有用感を育む学級会の実施に各クラスで差が見られる。また、学校として話し合いセットなどが整っていない。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	○本校の特色を生かした学習活動を計画的に実施することができた。 ●外部人材・地域人材を授業に生かせるよう学校応援団を充実させる。 ●さらに学校や児童の実態を踏まえ、年間及び単元の指導計画の見直しを行う。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の生徒指導委員会・いじめ防止対策推進委員会で情報共有や、組織的な対応策の検討を行い、適切な指導を行えるようにした。 ○中学校のさわやか相談員さんにも参加いただき、小中連携の視点で対応策を話し合えた。
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教師の乗り入れ授業など、中学校と連携して指導している。 ●各教科等の年間指導計画に明確に位置づけたキャリア教育を積極的に展開していく必要がある。
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の実態に応じた計画的な交流学习を行うことで、通常学級との交流が深まった。 ○支援を要する児童について、児童実態報告会、個別カルテ、特別支援校内委員会などで情報を共有し指導を充実させた。 ●分掌担当を中心に参観し、通常学級における支援を要する児童に対しての支援を行いたかったが欠員の影響で体制が整わなかった。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全校でビブリオバトルに取り組み、読書に親しむ雰囲気醸成された。 ○司書教諭・学校司書が中心となり、「各学年のおすすめの本50選」「読書ビンゴ」「おはなし給食」などの取組を行うことで、読書活動を啓発できた。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報・視聴覚部が中心となり、GIGA端末活用のための研修を行った。研修内容を即各クラスで実践する様子が見られ、児童の学習活動充実につながった。 ●端末の利活用が進んだ一方で、情報モラルに関する指導が十分に進んでいない様子が見られた。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回、教職員向けの人権教育研修を実施し、教職員の人権感覚を高め効果的な指導が行えるようにした。 ○夏季研修では、指導者を招聘し、同和教育への理解を深めることができた。 ●今日的課題のLGBTQに関する理解が不十分である。次年度の入学者にも性に関する事案が見られるため、早急に対応する必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	(1) ふるさとの森、ジャブジャブ池などの校内環境を活かした教育の推進。	・木々を大切に思う心が育っている。 ・季節の変化を感じている。 ・愛校心や郷土愛が育っている。	A	○委員会児童を中心にじゃぶじゃぶ池の環境を整備し、ふるさとの森と併せ、生活科や理科などの教科指導において効果的に活用した。 ○年間を通じて、学校の歴史や地域との関わりについて学習する機会を設け、学校や地域への愛着を高めることができた。
	(2) 異学年交流による自尊感情、思いやりの育成、助け合い、学び合いの推進	・クラブ・委員会の充実 ・縦割りあそびの充実 ・通学班での協力 ・年上へのあこがれ、感謝の気持ちが育っている。年下への思いやり、優しさが育っている。	A	○たてわり遊びを計画的に実施し、異学年交流の充実を図った。 ○兄弟学年で読書量チャレンジ、スポーツ大会を積極的に行い、児童の豊かな心が育まれた。
	(3) 食育の推進	・食事の大切さを知る。 ・食物への関心を持つ。 ・食事のマナーを知る。	A	○食事マナーについての動画を作成し、食事マナーの指導を行った。また、掲示物を用いて給食開始前に継続して指導を行っている。 ○校内給食展、食レポ、だし当てクイズ、和食の紹介、食育授業の実施等、様々な取組により食育の推進を図っている。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 保護者向け学校評価において90%以上の肯定的評価項目が多く見られた。
- アンケート項目「学校は、学校だより・学年だより・週予定表等をとおして、教育方針や教育活動を伝えていると思いますか」という問いでは、100%の保護者が概ねそう思うと回答した。学校の可視化が図られ、本校教育活動の理解が進んだと考えられる。考える。
- 各種学力・学習状況調査の活用や校内課題研修の取組により、児童の学力向上を推進した。草加市学力・学習状況調査では、平均正答率が全学年の全教科で市内の平均を上回るなど成果が見られた。
- 児童・保護者・教職員3者とも登下校時のあいさつに課題があると感じている。
- 夢をもつことや失敗を恐れず挑戦することは、児童は80%台だが、保護者は60%台、70%台で差が見られる。
(学校運営委員会委員様より)
- 自己肯定感・自己有用感の向上は学校だけではなく、家庭・地域でも積極的に行う必要がある。学校を核とし家庭・地域を巻き込む手立てを考えていきたい。
- 学校応援団の運用をとおして、学習活動の更なる充実に努めてほしい。また、地域人財の協力が教職員の負担軽減にもつながる。

6 次年度の改善策

- 教員のなり手不足、離職者増という現状を踏まえ、これまで以上に職務に対する責任感・連携感を育む必要がある。
- 不登校児童の増加が課題である。本年度はSSWやSCとの連携が十分に行われず、担任負担が大きかった。より一層の支援・対応が必要である。
- 草加中学区の研究発表に向け、幼保小中で自己肯定感・自己有用感が高まる一貫した教育の充実が必要である。
- デジタル化による教職員の働き方改革が十分に進んできたが、校支援回覧板確認が不十分で共通理解できていなものもあった。教職員の習慣化とともにプレゼン能力向上により会議・研修の効率化を図りたい。